

令和6年度 都立神津高等学校 学校経営計画

【教育目標】

高い志を持たせ、チャレンジ精神を育成する
個性を生かし、多様な人々との協働を促す
豊かな心や創造性を育む

1 目指す学校

本校は神津島村と村民のための最高学府である。神津島村教育委員会と連携して、生徒の学力向上に重点的に取り組み、心身ともに健康で小学生、中学生から目標とされる教育を展開して、社会の変化に対応し、地域で活躍する人材の育成に努める。

次の5項目について、仕事は働き方改革の観点から計画的に遂行する。

- ・主体的に自らの課題を発見して、課題解決に向けて、高い目標に挑戦し、努力できる生徒を育成する。
- ・お互いの個性や多様性を認め合い、他人を思いやることのできる心身の調和のとれた生徒を育成する。
- ・生徒の「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を図る学習指導を推進する。
- ・部活動、生徒会活動、地域活動などに積極的に参加して、豊かな人間性や自主自立の精神を育成する。
- ・郷土の歴史、文化、自然等に理解を深め、島民に信頼され、地域の小学生、中学生の目標となる学校づくりを推進する。

2 中期的目標と方策

(1) 学校経営

目標 島の最高学府として、生徒が未来を切り拓くための資質・能力を育成する。

- 方策
- ①校務分掌の取組目標と課題を学校全体で共有し、全教職員が一致して課題解決に取り組むとともに、組織対応力を向上させる。
 - ②自律経営推進予算の編成と計画的・効率的執行及び施設管理を行い、教育活動の充実を図る。
 - ③教職員が相互に信頼し、協力し合える職場環境の構築を推進する。
 - ④校内研修等を通して、いじめや体罰等の服務事故の根絶を目指す。
 - ⑤オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーを、各教科及び特別活動の中で学ぶとともに、スポーツが平和の礎であることを理解させる。
 - ⑥特別な支援を要する生徒の対応として、個別支援計画を策定し、全教職員が特別支援教育の理解、促進に努める。
 - ⑦管理職が教職員の在校時間を適切に把握し、必要に応じて指導・助言等を行うことで、全ての教職員に対し、在校時間に対する自己管理意識の醸成を図る。

(2) 学習指導

目標 基礎学力の定着とその教科を学ぼうとする意欲を高める。

方策 ①学校評価アンケート結果等を基に生徒の実態と課題を把握し、ICT機器等を活用して適切で効果的な教科指導法の改善を図る。

②習熟度別授業、少人数編成授業及びTTを活用し、生徒の学力向上を図る。

③オンライン授業を充実させ、災害時でも生徒の学習活動を保障する。

④教科会や校内研修会（授業評価等）及び教員の相互授業参観を活用し、主体的・対話的で深い学びの授業を展開する。

⑤長期休業中を活用し、東京都教職員研修センターが開催する教科等・教育課題研修等に参加し、教科指導力の向上を図る。

⑥外部模試及び定期考査・実力テスト等を活用し、生徒の学力を把握することで3年間を見通した学習計画を策定し、学習指導方法の計画的な改善を図る。

⑦宿題や課題に対する確実な提出指導を徹底し、「最後までやり通し、諦めさせない指導」を継続する。

⑧神チャレやサタデー神チャレにより、基礎学力の定着と学力の向上を図る。

⑨グローバル人材の育成を推進する。

(3) 生活指導・進路指導

目標 生徒が希望する進路指導を実現させるため生徒の意識を向上させることを目指す。（進路）
基本的な生活習慣及び規範意識を確立し、生徒の精神面の充実と向上を図る。（生活）

方策 ①安全教育を実施し、健康と安全保持の充実を図ると共に事故防止に努める。

②部活動の兼部を推奨し、部活動の活性化と体力の向上を図る。

③部活動等と学習活動との両立を図り、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

④3年間を見通したキャリア教育計画を策定し、望ましい勤労観・職業観及び社会性や協調性を育成することで進路実現を図る。

⑤進学サタデー神チャレ（SS神チャレ）により、進学者の学習への取組の意識を向上させる。

(4) 特別活動その他

目標 特別活動を充実させて、望ましい人間関係を形成し、豊かな心と健やかな体を育むことを目指す。

方策 ①地域に根ざした「総合的な探究の時間」や環境教育（地域美化活動）を実施するとともに、学校施設開放を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを行う。

②地域の教育力を部活動等に活用し、恒常的な活動を目指す。

③東京都及び神津島村と連携し、防災教育の充実に努める。

④黒潮祭等の学校行事や村民運動会等の村の行事を運営し、学校への帰属意識と地域貢献に努める。

⑤各授業の中で、読書活動の推進を図ることで、未読率を下げる。

⑥子供の基礎体力向上方針に沿って、生徒の体力を向上させる。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学校経営への参画

目標 校内分掌が活性化するとともに、島民に神津高校の活動を広報することを目指す。

- 方策 ① 学校のホームページやツイッター・学年通信等、広報誌の発行により高等学校の取組を広報して島民に本校の教育活動を開く。
- ② その他学校内の校務分掌での隙間の仕事を埋める取り組みを行う。
- ③ 校内における報告・連絡・相談を密にする。

(2) 学習指導

目標 授業を充実させて授業満足度90%以上を目指す。

- 方策 ① 生徒の授業に参加する態度を向上させる。
- ② 補習や宿題及び週末課題等を課し、生徒にやる気を出させる指導を行う。
- ③ 学力の伸長を図るため、長期休業中の補講・補習を実施する。
- ④ 学習指導要領に基づき授業の目標と活動を明示するとともに、ICT機器を活用するなど意欲的な授業展開を図る。
- ⑤ 大学の入試合格を目指した教材を厳選し、受験指導に取り組む。
- ⑥ オンライン英会話、オンライン海外交流、異文化理解教育等を通じてグローバル人材の育成に取り組む。

(3) 生活指導・進路指導

目標 生徒の心身ともに成長させて、希望する進路実現を目指す。(進路)

基本的な生活習慣及び規範意識を確立し、生徒の精神面の充実と向上を図る。(生活)

- 方策 ① 生活指導指針を全教職員で共通理解し、教員により差異がない指導を徹底する。
- ② 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、社会の構成員としての規範意識を高める。
- ③ 校内研修会等を通して教員のカウンセリングマインドの向上を図り、生徒との信頼関係を構築する。
- ④ いじめ防止基本方針に基づき、生徒に年3回のアンケートを実施する。また、スクールカウンセラーを活用したいじめの早期発見及びいじめ防止理解研修を実施する。
- ⑤ 総合的な探究の時間と関連させ、進路希望実現へ結びつける。
- ⑥ 進学指導については、進学指導コーディネーターを中心に(学力検査・学力スタンダード・定期考査・実力テスト・模擬試験等)を活用し、定期的にケース会議を開き、戦略的な指導を行う。
- ⑦ 組織的・計画的に「神津高チャレンジ」を実施し、学習習慣と基礎学力の定着を目指す。また、進学希望者にはケース会議に基づき、放課後の学習指導を行い、受験に対応できる学力を身に付けさせる。
- ⑧ 在学中から社会と関わる機会をつくり、社会の一員であることを自覚させることで、主権者意識の醸成を図る。

(4) 特別活動その他

目的 特別活動を充実させて、豊かな心と健やかな体を育むことを目指す。

- 方策
- ① HR活動や部活動等を通して、相互に信頼し、思いやる心を育てる。
 - ② 生徒会活動、ボランティア活動を推進する。
 - ③ 部活動を活性化させて、体力の向上と自己肯定感を高める。
 - ④ 地元のNPO法人との連携等を通して、「障害者理解」と「ボランティアマインドの育成」を図る。
 - ⑤ 外部人材等を活用し、部活動指導の質的向上を図る。
 - ⑥ 関係機関と連携して、安全指導・健全育成を行う。
 - ⑦ 神津島村防災担当と連携した避難訓練や防災訓練を実施することで、地域の安全活動に貢献できる生徒を育成する。
 - ⑧ 学校施設開放（体育施設等）や地域住民のニーズに合った公開講座を実施する。
 - ⑨ 神津島村立神津小中学校との連携を深め、小中高の円滑な接続をさらに推進する。

「数値目標」

学習活動	授業満足度	90%以上
	長期休業中の補習・補講	20講座以上
	日本漢字能力検定	} 検定合格者合計15人以上
	実用数学技能検定	
	実用英語技能検定	
	パソコン検定	
世界遺産検定		
生活指導	生活指導満足度	80%以上
	遅刻回数	1.2以下
	服装指導再登校指導対象者	0人
	特別指導での指導対象者	0人
	原級留置及び中途退学者（病気等による場合を除く）	0人
進路指導	進路指導満足度	90%以上
	国公立大学	1人
	第一希望への進学及び就職者	100%
	進路未決定者	0%
その他	部活動加入率	90%
	中学生体験授業	1回以上
	小・中学校への出張授業（含む進路講演）	2回以上
	授業公開での来校者3日間合計	100人以上
	ホームページ更新	月平均5回以上
	学校施設開放	計500回 8000人以上
	時間外在校時間 1か月45時間超の教員の割合	0%
	教員の1年当たり年次有給休暇取得日数	15日以上
	男性教員の育児休業取得率	100%